

令和 5 年度

第 1 回 宮崎市総合計画審議会 議事録

令和5年度 第1回 宮崎市総合計画審議会 議事録

1 日時 令和5年8月17日(木) 11時10分～12時07分
場所 宮崎市民プラザ 4階 ギャラリー

2 出席委員

第1号委員 淡野 公一

第2号委員 坂根 登

第3号委員 樋口 由香、有田 秀明、米良 充典、中川 育江、
山北 雄大、長友 孝平、黒木 真衣

3 議案の内容

(1) 第五次宮崎市総合計画の施策評価結果について(報告事項)

(2) 第六次宮崎市総合計画の策定について(協議事項)

4 審議の経過及び結果

経過 : 別紙 議事録のとおり

結果 : 第六次宮崎市総合計画策定方針について原案のとおり承認

議事録署名人

坂根 登

有田 秀明

【総合政策部長（宮崎市）】

皆様、お疲れ様でございます。

定刻となりましたので、ただいまから、令和5年度第1回宮崎市総合計画審議会を開催いたします。

私は、本日の進行を務めさせていただきます総合政策部長の長嶺でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

また、本日は、委員の半数以上の出席をいただいておりますので、宮崎市総合計画審議会条例第5条第3項の規定によりまして、会議が成立していることをご報告いたします。

それでは初めに、清山知憲宮崎市長がごあいさつ申し上げます。

【清山市長（宮崎市）】

皆様お疲れ様です。

委員の皆様にはご多用のところを、また大変暑い中、お越しくださいます。ありがとうございます。

昨年度は、皆様に熱心にご議論いただき、第五次宮崎市総合計画の改訂を行うことができました。改訂をさせていただいて、令和5年度と6年度は、その計画に基づいて、現在3つの大きな方針、経済成長を目指す、そして誰一人取り残さない社会づくり、さらに未来への投資ということで、その3つの大きな柱に基づいて重点的に市の政策を進めているところでございます。

改訂を行って間もなく、すぐにまたこの第六次総合計画の議論が始まるわけですが、第六次総合計画は、令和6年度いっぱいまで終期を迎える改訂されました第五次宮崎市総合計画の次の、宮崎市の長期にわたるまちづくりの方針となるものでございます。

この第六次総合計画については、できれば、策定して終わりではなくて、実際に計画を作って、我々宮崎市のまちづくりの方向性、そして毎年度の予算を編成していくに当たって、実際に参考となるようなものにしていきたいと考えております。

経済は生き物で社会情勢も目まぐるしく変わるものでございます。昨今、コロナ禍であったり、ウクライナ侵攻であったり、または物価高騰、

目の前の社会情勢に柔軟に対応する部分もありながら、一方で、人口予測など、やはり長期的に変わらない、基礎となるデータもございますので、そうした人口の推移、社会情勢の変化などのデータを参考に、この六次総については、策定を進めていきたいと考えておりますので、どうぞ皆様方におかれましても、ご審議のほどをお願い申し上げまして、私からの挨拶といたします。

どうぞよろしく願いいたします。

【総合政策部長（宮崎市）】

ありがとうございました。

本日は、第六次宮崎市総合計画の策定に向けた初めての会合になりますが、ご出席の委員のご紹介につきましては、お手元の名簿に代えさせていただきたいと存じますが、今回新たにご就任いただきました委員の方につきましては、ご紹介申し上げます。

宮崎労働局局長、坂根登委員でございます。

宮崎中央農業協同組合代表理事組合長、有田秀明委員でございます。

続きまして、公募委員のご紹介でございます。

山北雄大委員でございます。

長友孝平委員でございます。

黒木真衣委員でございます。

宮崎市の出席者でございますが、本日は、清山市長、帖佐副市長が同席させていただいております。

続きまして、第六次宮崎市総合計画の策定に係る諮問を行いたいと思っております。

諮問書の内容につきましては、お手元の会次第の次に、写しを添付しております。

清山市長と淡野会長は、会場の中央にご移動ください。

それでは、清山市長から淡野会長へ諮問書をお渡しください。

【清山市長（宮崎市）】

それでは、宮崎市総合計画審議会会長淡野公一様、第六次宮崎市総合

計画の策定について、貴審議会に諮問します。よろしくお願いいたします。

< 諮問書の手交 >

【総合政策部長（宮崎市）】

ありがとうございました。

それでは、席にお戻りください。

それでは、規定によりまして会長が議長となって進めることになっておりますので、ここからの進行につきましては、淡野会長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

【淡野会長（宮崎大学）】

宮崎大学の淡野でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、規定に従いまして、私が議長を務めさせていただきたいと思っております。どうぞご協力のほどよろしくお願いいたします。

先ほど、清山市長より本審議会に対して、第六次宮崎市総合計画の策定について諮問いただきました。

これから、この諮問に基づきまして、第六次宮崎市総合計画の審議を進めて参りますが、新型コロナウイルス感染症を契機とした新しい生活様式、また働き方、価値観の変化など、様々な変容を踏まえるとともに、こうした変容をチャンスに転換する視点を持って、委員の皆様から積極的なご意見、活発にご議論いただければと考えております。円滑な進行へのご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

まず議事に入ります前に、本日の会議録署名委員2名を私の方で指名させていただきたいと思っております。

本日ご出席いただいております委員の中から、坂根委員と有田委員にお願いしたいと思っておりますがよろしいでしょうか。

< 異議なし >

それでは、坂根委員、有田委員、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは議事次第をご覧ください。

本日は報告事項が1件、協議事項が2件となっております。

第六次宮崎市総合計画の審議を行うに当たりまして、第五次宮崎市総合計画の評価結果を踏まえたうえで策定にとりかかる必要がございます。

従いまして、議事次第の4、報告事項、「第五次宮崎市総合計画の施策評価結果について」、「令和5年度施策評価結果」ということで、この内容について事務局から説明をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

【企画政策課長（宮崎市）】

宮崎市企画政策課の勢井でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、「第五次宮崎市総合計画」の令和5年度施策評価結果について、ご説明いたします。

資料は、資料2をご覧ください。

施策評価結果の概要をお示しした資料でございます。

令和4年度の本市の取組実績に対する、令和5年度施策評価につきましては、5月に庁内で内部評価を実施し、6月に開催いたしました、第1回の宮崎市総合計画策定・推進会議専門部会において、ご出席いただいた17名の専門部会委員の皆様、外部評価としてのご意見をいただきました。

その結果をとりまとめた上で、7月に開催いたしました、第2回の専門部会において、外部評価結果を確定したところでございます。

資料の左上にお示ししておりますが、「外部評価の判断基準」につきましては、A評価の「成果が出ている」から、バー表示の「評価できない」までの5段階評価となっております。

この基準に基づき、第五次宮崎市総合計画に設定しております12の重点項目について、庁内で実施いたしました内部評価の結果や、社会情勢などを勘案しながら、専門部会委員の皆様それぞれ評価していただいた結果、最も票の集まった評価結果を、その重点項目の外部評価結果としております。

資料の見方としましては、左側の列から、各重点項目における専門部

会委員による評価の内訳、その結果である外部評価結果、庁内で実施いたしました内部評価結果、昨年度の外部評価結果、最後に、専門部会委員の皆様からいただいた主なご意見を記載しております。

今回の外部評価結果としましては、赤文字の部分になりますが、結果として、すべての重点項目において、内部評価と外部評価が同じ結果となっております。

昨年度の本市の取組に対しまして、一定の評価をいただいたところでございますが、一方で、外部評価がA評価となった重点項目において、「さらなる取組が必要」というご意見をいただいたり、逆にB評価となった重点項目において、「前向きなご意見」をいただいているものもございます。

外部評価の総括結果としましては、12の重点項目につきまして、A評価が3項目、B評価が8項目、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、適切な評価を行うことが困難であるという「バー表示」が1項目となっております。

主なポイントとしましては、4点ございます。

まず、1点目としましては、基本目標1の、重点項目「1-3 自然環境の保全と生活の質の向上を図る「居住環境の充実」」におきまして、昨年度の外部評価結果と比較して、「A評価」から「B評価」に低下した点でございます。

こちらは、内部評価におきましても、設定しております指標のうち、「植林面積」、「伐採面積」及び「犬猫に関する苦情件数」において、目標値と実績値から算出したしました達成率が低下したことが主な要因となり、昨年度の「a評価」から「b評価」に評価が低下しておりました。外部評価におきましても、「一定の成果が出ている」という「B評価」の委員が多かったところとしまして、「山間部における伐採後の植林の推進が必要」などのご意見をいただいております。

次に、2点目としましては、基本目標2の重点項目「2-1 地域に愛着や誇りをもつ「みやざきっ子の育成」」におきまして、昨年度の外部評価結果と比較して、「B評価」から「A評価」に向上した点でございます。

こちらは、内部評価におきましても、設定しております指標のうち、

「地域人材や産業会と連携・協働したキャリア教育に取り組んでいる中学校の割合」において、達成率が上昇したことなどが要因となり、昨年度の「b評価」から「a評価」に評価が上がっております。

外部評価におきましても、「A評価」の委員が多かったところでございますが、「不登校児童に寄り添った一層の取組をお願いしたい」などのご意見をいただいております。

次に、3点目としましては、同じく基本目標2の、重点項目「2-3 一人一人が尊重され、生き生きと暮らせる「共生社会の確立」」におきまして、昨年度の「バー表示」から、「B評価」となり、評価を行うことができた点でございます。

内部評価におきましても、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた指標が減少したことから、評価を行うことができたところでございます。

外部評価におきましても、「一定の成果が出ている」という「B評価」の委員が多く、評価を行うことができたところでございますが、「国際交流と多文化共生」の意識に関しては、市民に浸透していないように思えるため、インバウンドを介した交流事業などがあるといいのではないかとのご意見をいただいております。

最後に4点目としましては、基本目標4の重点項目「4-1 交流人口や販路の拡大を図る「ブランド力の向上」」におきまして、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、適切な評価・検証を行うことが困難とことから、昨年度と同様に「評価できない（バー表示）」となった点でございます。

こちらにつきましては、「評価できない」とはなっておりますが、重点項目に設定しております指標のうち、「宿泊者数」、「観光消費額」、「観光入込客数」などの実績は、V字回復傾向を見せており、外部評価におきましても、「観光消費額についてはコロナ禍前以上の実績があるのは素晴らしい。アフターコロナに対応した攻めの取組を期待している」などのご意見をいただいております。

以上が、施策評価の総括結果のポイントでございます。

説明は以上でございます。

【淡野会長（宮崎大学）】

ありがとうございました。

ただ今の説明に関しまして、質問、コメント等ございましたら、委員の皆様よろしくお願ひします。

<質問、意見なし>

いかがでしょうか。よろしいでしょうか。質問、コメント等ないので、協議事項に移りたいと思いますがよろしいでしょうか。

<異議なし>

ありがとうございます。

それでは、「第六次宮崎市総合計画の策定について」ということで、事務局から説明をお願いしたいと思います。

【企画政策課長（宮崎市）】

それでは、「第六次宮崎市総合計画」の策定についてご説明いたします。資料は、資料3をご覧いただきたいと思います。

ここでは、第六次宮崎市総合計画を「六次総」と省略させていただきます。

この「策定方針」は、六次総策定に当たっての基本的事項を記載しておりまして、市役所内において共通認識を持ち、同じ方向を向いて策定にあたるとともに、当審議会の皆様をはじめ、専門部会委員の皆様、または策定に関わっていただく若者の皆様に、本市の方針をお示しする趣旨で作成しております。

なお、市役所内における六次総の議論でございますが、「若手職員も参画できるような仕組みづくりを」といった意見がございました。そこで、市内部で検討を重ね、宮崎公立大学や宮崎大学のご協力を得ながら、若者を取り込む仕掛けも盛り込んでおります。

このように、「策定方針」をベースとしつつ、六次総の基本構想、基本

計画の素案策定に当たりましては、各方面のご意見を踏まえながら、段階的な議論を重ねる中で、内容の精度を高めていきたいと考えております。

それでは、2ページの「目次」をご覧ください。

他都市を参考にしながら、「策定方針」として盛り込むべき項目を8つ設けております。

続きまして、3ページ「1 計画策定の趣旨」をご覧ください。

基本的な部分でございますが、総合計画を策定する必要性について、明らかにしておきたいと思っております。

人口減少に伴う少子高齢化問題や、デジタル技術の進展、持続可能性などについて記載しておりますが、「■（しかく）」の4番目をご覧ください。「本市の10年後又はその先に照準を当て、限られた資源をどのように戦略的かつ効果的に投資すべきか、エビデンスに基づきより解像度の高い将来の姿を市民とともに共有すべく、新たな総合計画の策定を行う。」ことといたします。

続きまして、4ページ「2 総合計画の変遷」をご覧ください。

ご参考として、本市のこれまでの総合計画の構成、期間及び将来の都市像などを掲載しております。

一番下でございます現五次総の将来像は、赤字にあるとおり、「未来を創造する太陽都市「みやざき」」となっております。

続きまして、5ページ「3 計画策定に当たっての基本的な考え方」をご覧ください。

総合計画は、計画期間が中長期にわたることから、策定当時に最適であっても、社会経済情勢等の変化により、その存在意義が希薄になってしまう可能性があります。

「(1)」に記載のとおり、五次総の計画期間中には、新型コロナウイルス感染症を契機としたデジタル化の加速、ロシアのウクライナ侵攻などに伴う物価高騰、といった社会情勢の変化がございます。

また、国におきましては、これまでの「地方創生総合戦略」から、現政権下において新たに「デジタル田園都市国家構想 総合戦略」を打ち出しているところです。

さらに、本市におきましては、「総合計画」と「地方版総合戦略」という内容が重複する2つの計画が、異なる計画期間で進んでいることも、市民の皆様方にとって理解しづらく、我々行政側にとっても進捗管理などに負担がかかっている状況でございます。

このことから、六次総策定に当たっては、「(2)」のとおり、3つの観点を重視したいと考えております。

まず、「①柔軟性の高い計画であること」でございます。

中長期的な政策の方向性を明らかにしつつ、時代の潮流に柔軟に対応できる計画にしたいと考えております。

次に、「②実効性の高い計画であること」でございます。

本市を取り巻く厳しい現況を踏まえつつ、公民連携の手法を用いながら、よりよい未来に向けて真に効果を上げられる計画としたいと考えております。なお、ここで言う「公民連携」の「民」でございますが、民間事業者様はもとより、NPOなど、多様な主体を想定しております。

次に、「③合理性の高い計画であること」でございます。

市民にとって分かりやすく、進行管理に無駄な負担がかからない計画としたいと考えております。なお、六次総は、子ども向けの概要版の作成を検討しております。あらゆる世代、幅広い市民に分かりやすいものとなるよう、見せ方という点も工夫したいと考えております。

6 ページ「4 計画の構成・期間」をご覧ください。

左半分に五次総、右半分に六次総の構成や期間などを記載しております。

まず、「【基本構想の定義】」でございますが、定義自体は六次総も同様といたします。

一方、その下、「【基本計画】」でございますが、五次総では、「基本構想を実現するための基本的方向や具体的な取組、成果指標を体系的に示し、重点的な取組となる戦略プロジェクトを定めるもの。」としておりましたが、六次総におきましては、シンプルに「基本構想を実現するための方策を体系的に示すもの。」といった表現にしたいと考えております。

また、「【計画期間】」につきましては、五次総は、基本構想が10年間、基本計画が前期と後期に分けて5年間ずつでございましたが、六次総は、

基本構想及び基本計画を10年間としまして、基本計画については、社会経済情勢等の変化など、必要に応じて随時、見直しを図ることとしたいと考えております。

六次総の「【その他】」としまして、合理性の観点から、総合計画と総合戦略の一体化を図りたいと考えております。

次に、下半分の緑のピラミッド型の図にて、構成の違いをお示ししております。

はじめに、左側の五次総は、階層といたしまして、「将来の都市像」、具体には「未来を創造する太陽都市「みやざき」」がございまして、「将来の都市像」とは別に、「みやざき共創都市圏ビジョン」における「圏域の将来像」及び「宮崎市地方創生総合戦略」における「基本方針」とほぼ同様の文言である、「地域に愛着をもち、新たな価値を共に創る」という「まちづくりの基本姿勢」がございまして。

そして、「まちづくりの基本姿勢」に基づき「まちづくりの基本的な考え方」が3つございまして。

また、「目指すべきまちの姿」として5つの「基本目標」がございまして、「基本目標を実現するための方策を分野別に示したものとして、11の「重点項目」がございまして。ここまでの「基本構想」に位置付けられております。

その下「基本計画」の部分には「重点項目の基本的方向」があり、この「基本的方向」に向かって、55の「主要施策」が位置付けられております。

このように、五次総は、階層が複層的であることや、議決事項である「基本構想部分」が多くを占めていることから、時代の潮流に柔軟に対応しづらい状況がございまして。

従いまして、六次総につきましては、右側のとおり「基本構想」に位置付ける内容は、大きく2つを予定しております。

1つ目は、「将来の都市像」として、本市の現状分析の結果や時代の潮流を捉えながら、解像度の高い将来展望に基づくキーワードを置きたいと考えております。

2つ目は、この「将来の都市像」を実現するための「目指すべきまち

の姿」について、課題、背景、方向性などを含めて作成したいと考えております。

これについては、現状の五次総における「基本目標」よりも、より大きな視点で描きたいという思いがございます。ここまでが、市議会における議決事項部分になります。

次に、この「基本構想」を実現するための具体的な方策につきましては、下の方の「政策」として、「基本計画」に位置付けたいと考えております。

さらに、「政策」を推進するための分野別の施策を「重要施策」とし、「重要施策」を推進するための具体的な施策を「基本施策」としたいと考えております。

また、右下の「※」に小さい文字で記載しておりますとおり、「戦略プロジェクト」につきましては、現行のプロジェクトは施策体系に反映しつつ、別途、重点化事項を基本計画に位置付ける方法について検討する予定としております。

続きまして、7ページ「5 基本構想の検討に当たっての主な論点」をご覧くださいと思います。

こちらは、次の8ページまでに渡っての資料となります。

(1) から (3) まで表記しておりますが、こちらは、「基本構想」部分の具体的な章立てとなることを想定しておりますので、順を追って説明いたします。

まず、「(1) 時代潮流と本市現状の精査」でございます。

こちらについては、今後、本市の将来都市像を描く上で基礎となるデータを精査し、現状分析いたします。

次に、「(2) 解像度の高い将来展望」でございます。

(1) の分析結果を踏まえまして、「①の人口減少・少子高齢化の進行」から、「⑦の財政状況とインフラの老朽化」までの様々な角度から、具体的な将来展望について記載することを想定しております。

続きまして、8ページをご覧ください。

最後は、「(3) 将来の都市像と目指すべきまちの姿(素案)」でございます。

「将来の都市像」と「目指すべきまちの姿」につきましては、今後、専門部会、大学生や若手職員によるワークショップ、審議会によるご意見も踏まえまして、策定作業を進めていくことを想定しております。このため、本市として重視するポイントを、対外的にも示していきたいと考えております。

まず、「① 将来の都市像」でございますが、あくまで、今後の専門部会や審議会などでの議論を踏まえて形づくるものと承知しておりますが、本市といたしましては、「開かれた」宮崎市であること、つまり、オープンマインドといった点を重視したいと考えております。

続きまして、「② 目指すべきまちの姿」でございますが、「経済」つまり経済都市としての姿、「ひと」つまり市民一人ひとりの姿、「未来」つまり将来世代が希望を持って暮らしている姿、この3つの観点から「目指すべきまちの姿」を設定していきたいと考えております。

一つ目の「経済の姿」は、「ひと、もの、産業が集まる経済都市として、その門戸が常に開かれた状態」、つまり、「開放性」や「寛容性」を重視したいと考えており、より柔軟性の高い経済社会が確立される状態を目指したいと考えております。

二つ目の「ひとの姿」は、「人々が生きやすくと感じられ、様々な価値観が共有された状態」、つまり、「多様性」や「包摂性」を重視したいと考えております。

三つ目の「未来の姿」は、「将来の見通しを持ちながら、何世代にもわたり、育ち、学び、暮らし続けられる状態」、つまり、「希望」や「持続可能性」を重視したいと考えております。

なお、ここでいう「持続可能性」は、3つの目指すべき姿のひとつにかかりますが、それとは別に3つの姿全般にかかる、大きな意味での「持続可能性」という視点も、今後、研究してまいりたいと考えております。

続きまして、9ページ「6 全体イメージ（素案）」をご覧くださいと思います。

大枠の全体イメージでございます。

左側の列から、策定プロセス、基本構想、基本計画について記載をしております。

このうち、右下部分の「戦略プロジェクト」と書いております部分につきましては、先ほど、6ページの構成・期間の説明時にも触れましたが、別に章立てを行った上で、一番右側の列の「基本施策」レベルでの再構築を行い、基本構想の実現に向けて、重点化する施策について「見える化」を図ることで、六次総の実効性をより担保する形にしたいと考えております。

続きまして、10ページ「7 策定体制」をご覧くださいと思います。

上の部分の2つの「■（黒しかく）」をご覧ください。

六次総策定に当たりましては、大学生や本市若手職員によるワークショップを実施し、若者の意見を反映する、より議論が活発となるよう、専門部会に分科会を設置するなど、それぞれの会議体において新たな取組を行いたいと考えております。

具体的には、下の方に記載しておりますとおり「総合計画審議会」に、公募委員として3名を追加し、市民参画を促す、「専門部会」に、新たに「分科会」を3つ程度設置し、さらに「分科会」委員として、既存の専門部会委員の皆様に加えまして、若手の実業家や、本市の若手職員、宮崎大学及び宮崎公立大学の学生を追加し、より具体的な議論を可能とする、それから、市役所内では、今後、必要に応じて、幹事会や作業部会を設置し、意見を集約していきたいと考えております。

それでは、11ページ「7 策定体制（体制図）」をご覧ください。

こちらは、全体的な体制図の案となっております。

このうち、右側の真ん中の四角囲みの「専門部会」におきまして、先程ご説明差し上げました、基本構想案の「目指すべきまちの姿」に即して、01から03までの分野イメージに分けた、「分科会」の設置を想定しております。

また、図の一番下のほう「若者（大学生・若手市職員）ワークショップ」につきまして、3つ目のポツのとおり、ワークショップの参加者のうち代表者として複数名に、ただいま説明しました「専門部会分科会の委員」として参画いただくことで、若者の意見の反映を図りたいと考えております。

それでは、12ページ「8 策定スケジュール」をご覧くださいきたいと思います。

この資料の最後になります。

会議体ごとに、それぞれの開催スケジュールを記載しております。

本日の会議を踏まえ、庁内調整等を経まして、10月5日に専門部会「全体会」を開催いたします。その後、10月12日、24日の2回について「分科会」に分かれてご議論いただき、11月7日に「分科会」での議論の総合的なまとめとして、最後「全体会」を開催することを予定しております。

なお、若者のワークショップでございますが、台風6号の影響により、第1回目が延期となり、8月31日に第1回、9月12日に第2回を開催予定でございます。

審議会の委員の皆様に対しましては、ワークショップの概要や、専門部会及び分科会における議論の過程を、適宜ご報告させていただきます。

ご多忙の折、タイトなスケジュールとなりますが、審議会委員の皆様にはご指導、ご鞭撻、ご協力等いただきますよう何卒よろしくお願いいたします。

資料3「第六次宮崎市総合計画策定方針」につきましては、以上でございます。

続きまして、資料3「本市の現状データ集」をご覧ください。

こちらは、精査中の資料でございます。

先程来、申し上げてきましたとおり、総合計画策定に当たっては、「エビデンスに基づき、より解像度の高い将来の姿」を描きたいと考えております。

従いまして、庁内検討はもとより、今後の専門部会における議論や、若者によるワークショップにおいても、このような資料を用意いたします。

現在は「宮崎市の未来を考える基礎データ」と銘打っておりますが、データ集計、分析、見せ方などにつきましては、今後、ブラッシュアップしてまいります。

長くなりましたが、説明は以上でございます。

【淡野会長（宮崎大学）】

ありがとうございました。

ただ今、六次総について説明をいただきました。

簡単に総括いたしますと、資料3の7ページ、人口減少と少子高齢化を主軸にするとのことでした。また、解像度の高い将来展望、宮崎市の将来を展望する上で、①から⑦までの7つの観点を持って、単に議論するのではなく、しっかりとした推計値、必要なデータをさらに精査、分析しながら、作っていきましょうという説明でございました。それに加えて、最後のほうに説明がございましたが、大学生や若手の職員によるワークショップを開催し、若者からアイデアを提供いただいて、そのアイデアを活発に活用し、それらを踏まえながら、庁内及び専門部会で議論していくという説明であったかと思えます。

以上の説明につきまして、委員の皆様からご意見、コメント等いただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【長田氏※（宮崎市観光協会 常務理事兼事務局長）】

（※渡邊委員（宮崎市観光協会 会長）欠席のため、オブザーバーとして当審議会に同席。）

第五次の施策評価について、最終的な評価結果とともに、専門部会委員からの主な意見が掲載されています。私も専門部会委員として意見を述べた一人ではありますが、六次総の策定方針の中に、参考として何か盛り込まれるものなのでしょうか。

【企画政策課長（宮崎市）】

いただいたご意見につきましては、施策的に大きなものから事業レベルのものまでございます。それぞれの予算化によって反映をしたり、今後、六次総の施策レベルの議論の中で反映させていく方向で考えていきたいと思えます。

【淡野会長（宮崎大学）】

よろしいでしょうか。他にご意見等ございませんでしょうか。

公募委員の皆様方よろしいでしょうか。

【淡野会長（宮崎大学）】

それでは、ご質問、ご意見等ございませんので、この六次総の策定方針につきまして、了承するというところでよろしいでしょうか。

【米良委員（宮崎商工会議所）】

基本構想の検討に当たって、「経済」「ひと」「未来」の3つ観点から目指すべきまちの姿を検討することの説明がありました。私は基本的に経済の分野しか分からないので、「経済」の部分について意見を言いたいと思います。

資料3には、「経済の姿」の「視点」として「ひと、もの、産業が集まる経済都市として、その門戸が常に開かれた状態」と書かれています。「門戸が常に開かれた状態」に関しては、先ほどの五次総の施策評価でも、インバウンドを促進すべきといった専門部会のご意見があったかと思います。私は、インバウンドというのは、宮崎に来ていただきたいということだと思っています。

例えば、熊本のTSMC（台湾積体回路製造）の半導体工場は、約1兆円の投資が行われていると聞いております。現在8割が出来上がっている状況で、今後TSMCの従業員と、それに付随する家族がやってくるわけです。300人の従業員がいて、その家族が、例えば子どもさんが3人いたら、5人家族でやってくるわけですから、いわば1,500人の村ができるということになります。1つの大きな村ができるわけですから、それに対するインフラ、道路、信号、学校、通勤等、これから熊本が想定していない事柄が起きるかと思います。

また、TSMCではなくPSMC（力晶積成電子製造）という企業がSBIホールディングスと手を組みましたので、今後、工場の立地について動きがあるかと思います。

いろいろな意味で、受け入れるというのは大変なリスクがあると思います。インバウンドと言いますと、確かに聞こえはいいのですけれども、雇用する立場から言えば、急速に給料が上がり、熊本は高卒の初任給が

22万円、大学卒が36万円、アルバイト生だと時給2,000円というのが現状だと聞いていまして、もし宮崎で同じようになった場合、市内企業は潰れる可能性もあるかと思えます。

外から来ていただくというインバウンドは非常に大事だと思いますが、一方で、アウトバウンドも重要かと思えます。貿易という点で言えば、つまり自分のほうから向こうに行くということですが、私の経験ですとカタール、ザンビアといったところに行きました。台湾の人がザンビアあたりに行くと、半年後には貿易が始まっていることがあります。しかしながら、うちが人を費やして取り組んでも、貿易が始まるのは3年かかってしまうことがあります。これは日本人の気の弱さといえますか、情報のなさといえますか、やはり民族性が出ているのかと思えます。

アウトバウンドも簡単なことではないのですけれども、現在、JETRO（日本貿易振興機構）の関係で、宮崎から10数社の企業が北アメリカ等に食料関連で出て行っています。

経済は、今日いくら儲かるかの積み重ね、その具現性がある意味重要かと思えます。総合計画の10年という目安はよく分かりますけれども、そのうちの5年、そのうちの1年、そのうちの今日、といった視点も、少しだけお考えいただくと非常に助かると思えます。

審議会で協議会のことには触れるのはふさわしくないかもしれませんが、この総合計画審議会の前に、広域連携推進協議会がありました。審議会委員の中には協議会には出席されていなかった方もいらっしゃいますが、広域連携というのは、綾町と国富町と宮崎市の3つが連携するわけですが、綾町と国富町と宮崎市を比較するのは、少し無理がある部分があると思えます。人口規模で約1万人の町と、宮崎市は約40万人です。10人の会社と、400人の会社を比較しようというわけです。そもそも根幹が違うものを同じテーブルの上で、経済も教育も福祉もいろいろな事柄をしなければならぬとなると、予算の問題もあるかと思えます。経済ということを言い出したらキリがないのですけれども、広域連携にはそのような面もあるのではないかなと思えます。私は、広域連携が不要と言っているわけではなく、広域連携自体は必要だと考えています。ただ、必要ではありますけれども、もう少し考えないと、無理があるかなと思う

ところもあります。例えば、同じことをやろうとしたときに、国富町と綾町が3人くらいでやれることが、宮崎市では100人程度の人員を要することになるということです。

広域連携として取り組む項目を、もう少し縮めるなど、基本構想は、大きく捉えなければならないのですけれども、落としどころはどこなのかというところを考えながら、策定していただければ非常に幸いなのかなと思っております。長々とすみません。

【淡野会長（宮崎大学）】

ありがとうございます。

清山市長もおっしゃいましたし、この資料の中にも書かれておりますように、やはり柔軟性がすごく大事かと思っております。中長期の間に、いろいろな事情、社会情勢で、「変わる」ことがありますので、米良委員のご意見も踏まえて、審議していくことが必要かと思えます。事務局のほうで何かございましたらお願いします。

【清山市長（宮崎市）】

事務局側として私のほうからお答えいたします。ご意見ありがとうございます。

広域連携については、委員のおっしゃるように、教育や福祉など、同じことをやっている部分については、一緒に議論してどうこうというのは、少し思うところはございます。一方で、観光等に関しては、やはり綾町は本市にはないものがございますので、観光施策を各々バラバラでやるよりは、宮崎市と綾町で一緒に売り込んだほうがいいのかと思えます。

また、国富町につきましては、ローム株式会社（ROHM）が来ることので、人材確保については、やはり宮崎市と国富町で一緒に考えていかなければならないかと思えます。

そのような大きな産業政策についても、関わりを持たなければならない部分があるかと思っております。

そこで、経済に関しては、先ほど委員から最後にご指摘いただいたところでございますが、やはり落としどころが重要かと考えております。

宮崎市として何を目指していくのかというところですが、やはり、宮崎市の経済成長であり、市民所得の向上でございますので、そのためには、市内の企業が成長することが重要だと考えております。市内企業の成長のためには、宮崎市が外にモノを売る、地産外商のように、外貨を稼いでいくことも重要な考え方の一つであると思っております。

また、インバウンドはサービスという財を宮崎市で外貨として稼ぐものでございますので、やはり最終的には市民所得を上げるために何をすべきかということを考え、そのためには、宮崎市内に留まっているのではなく、市外、県外さらには世界に目を向けていかなければならないという危機感を持っております。

今後、工業分野においても、工場立地のための工業用地をどうするのか、現在、そのような課題等も議論しているところですが、我々としては、できればそこに来ていただくのは、いきなり外からというわけではなく、市内や県内の企業に、そのような土地を活用していただき、外で外貨を稼いでいただきたいという、理想の形態がございます。

最終地点をしっかりと意識しながら計画を考えていければと思っております。ありがとうございます。

【淡野会長（宮崎大学）】

ありがとうございます。

他にご意見等ございませんでしょうか。

<質問、意見なし>

詳細については、これからの議論の中で詰めていくことが必要かと思っておりますけれども、今回の協議事項「第六次宮崎市総合計画の策定について」は、審議会として了承することよろしいでしょうか。

<異議なし>

ありがとうございます。

それでは、了承されたものとして取り扱わせていただきます。

事務局においては、先ほどの方針に基づいて、またいろいろなご意見に基づいて策定にとりかかっていますようお願いいたします。

以上で、本日の審議の全てを終了させていただきます。

委員の皆様方のご協力により、円滑な会議進行を行うことができました。深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

それでは、進行を事務局にお返します。

【総合政策部長（宮崎市）】

淡野会長、ありがとうございました。

委員の皆様にはご協議をいただきましてありがとうございます。

以上をもちまして、令和5年度第1回宮崎市総合計画審議会を終了いたします。